

表3 宿題報告一覧

年	総会回	演者	演題
1962 (昭和 37)	51 (札幌)	岡林 篤 藤巻 茂夫 新井 恒人 河瀬 収	感染と免疫 A 感染の免疫病理学的研究 感染と免疫 B 免疫とアレルギー - 膠原病の病理 動脈硬化症 A 動脈硬化症の病理 - 代謝障害からみた成り立ち, とくに初期像について 動脈硬化症 B 弾性線維の態度, 特に微細構造の変化について
1963 (昭和 38)	52 (大阪)	嶋田 博 神部 誠一 家森 武夫 川合 貞夫	肺胞の構造と病理 - 光学顕微鏡並びに電子顕微鏡による研究 新産児の病理 炎症における食細胞の関与とその形態 脳腫瘍の実験的研究
1964 (昭和 39)	53 (仙台)	太田 邦夫 高木 文一	胃癌の発生 細胞傷害の超微形態学
1965 (昭和 40)	54 (長崎)	妹尾佐知丸 宮地 徹	細胞の分化 - 赤芽球の分化を中心として わが国の肝臓 - とくに肝硬変との関係について
1966 (昭和 41)	55 (広島)	諏訪 紀夫 武内 忠男	肺の構造と機能, 特に肺気腫の換気力学について 酸素反応からみたグリコーゲン代謝の形態学的研究
1967 (昭和 42)	56 (名古屋)	佐藤 春郎 林 秀男	癌転移, 腹水腫瘍の実験病理学的研究から 炎症 その発生と抑制の機構について
1968 (昭和 43)	57 (東京)	小島 瑞 草野 信男	リンパ節の細胞病理学的研究 - 特に二次小節を中心として 蛍光抗体法による日本脳炎の研究
1969 (昭和 44)	58 (福岡)	小野江為則 松本武四郎	肝臓の超微構造的病理学 脾腫の病理形態学 - とくにいわゆる B anti 脾を中心として
1970 (昭和 45)	59 (京都)	北村 四郎 大根田玄寿 岡野 錦弥	形態学よりみた炎症のメカニズム 脳出血の病理 - 血管病変を中心として 病理学的表現の客観化, 殊に人体白血病とその周辺について
1971 (昭和 46)	60 (東京)	大高 祐一 花岡 正男	結合組織病の病理 - リウマチを中心として γ M抗体産生機構の免疫病理学的研究 - とくに虫垂との関連について
1972 (昭和 47)	61 (東京)	細川 修治 斎藤 守	不明 不明
1973 (昭和 48)	62 (千葉)	西塚 泰章 影山 圭三 相沢 幹	胸腺機能の実験的研究 - 周生期病理学の立場から 肺腺維症のなりたち 移植と移植免疫
1974 (昭和 49)	63 (名古屋)	山田 明 竹内 正 武田 進	職業性毒ガス中毒の病理解剖学的研究 - 特に呼吸器癌の発生について - 腎内血管攣縮の形態学と腎内血行動態 紫外線DNA損傷と修復に関する細胞病理学的研究
1975 (昭和 50)	64 (高槻)	梶川欽一郎 笹野 伸昭	細胞間マトリックスの病理 副腎皮質内分泌環境の機能病理学
1976 (昭和 51)	65 (仙台)	島峰 徹郎 長与 健夫	慢性骨髄不全の病理 胃癌発生に関する組織学的及び実験的研究

表3 宿題報告一覧 つづき

年	総会回	演者	演題
1977 (昭和52)	66 (岡山)	石川 栄世 田中 健蔵 濱島 義博	腎盂・腎炎の病理 線浴現象の病理学的研究 川崎病
1978 (昭和53)	67 (熊本)	小林 博 那須 毅 米沢 猛	異物化 膜(形成)性脂質異常症 membranous lipodystrophy の病理 脱髄疾患と脱髄機構
1979 (昭和54)	68 (東京)	渡辺陽之輔 小川 勝士	ヒト好中球および白血球細胞の微細構造 アデノウイルス12型誘発腫瘍 - とくに実験脳腫瘍へのア プローチ -
1980 (昭和55)	69 (札幌)	飯島 宗一 菅野 晴夫 塚田 英之	生体防禦機構の器官化 - 脾臓を中心として - 人癌の自然史 ペルオキシゾームの病理学的研究
1981 (昭和56)	70 (東京)	青山 友三 森 亘 藤田 哲哉	ヘルペス群ウイルスによる感染症の病理学的研究 劇症肝疾患 細胞動態からみた胃癌の発生と進展
1982 (昭和57)	71 (東京)	松本 圭史 志方 俊夫 遠城寺宗知	性ホルモン依存性腫瘍 ウイルス性肝炎 - その感染と発症 - 軟部肉腫および肉腫様病変の組織形態学
1983 (昭和58)	72 (大阪)	下里 幸雄 菊地 浩吉	肺癌 - その組織発生, 分化, 予後因子について - リンパ球表面抗原の解析
1984 (昭和59)	73 (東京)	畠山 茂 杉山 武敏 横路謙次郎	ヒト睾丸萎縮の病理 癌と染色体異常 - 実験白血病の研究から - 白血病の発生と進展に関する実験的研究
1985 (昭和60)	74 (東京)	京極 方久 玉置 憲一 奥平 雅彦	免疫病の病理 - 組織傷害と慢性化機構の解析 - ヌードマウス移植人癌の病理 - 担癌個体の病理学への実 験的アプローチ - Opportunistic Fungus Infection の病理
1986 (昭和61)	75 (仙台)	伊東 信行 渡辺 慶一 井川 洋二	膀胱癌 - 発生と進展並びにその修飾 - 脂質過酸化と細胞傷害: その調節機構としてのグルタチ オンペルオキシダーゼの意義 レトロウイルスによる白血病発生の機構: 腫瘍化関連遺 伝子とその標的細胞における発現
1987 (昭和62)	76 (東京)	土山 秀夫 吉永 秀	腫瘍と過形成の病理 - 副腎皮質を場として - 炎症による免疫応答の増幅機構とその意義
1988 (昭和63)	77 (札幌)	林 裕造 中村 恭一 家森 幸男	環境化学物質による発癌の病理 - 癌一次予防の病理学的 基礎 - 大腸癌の構造: 異型度係数から導かれる大腸癌の組織発 生とその発育進展 循環器疾患の予知・予防病理学
1989 (平成元)	78 (京都)	須知 泰山 北村 幸彦	T細胞リンパ腫 - 多様性とその生物学的背景 - マスト細胞. 起源, 分化, 機能
1990 (平成2)	79 (福岡)	北川 知行 竹田 俊男 若狭 治毅	肝癌の発生 老化促進モデルマウス (SAM) の開発 Bリンパ腫 - 組織発生, 増殖および進展

表3 宿題報告一覧 つづき

年	総会回	演者	演題
1991 (平成3)	80 (大阪)	森 道夫 生田 房弘	細胞骨格の機能病理学 - 肝臓を中心として - 脳病巣の修復とアストロサイト
1992 (平成4)	81 (仙台)	田原 榮一 板倉 照好 白井 俊一	ヒト胃癌の発生・増殖・進展 - 分子病理学的アプローチ 病理学における細胞間相互作用 - その分子機構の解析 全身性エリテマトーデスの病理
1993 (平成5)	82 (東京)	細田 泰弘 小西 陽一 高橋 潔	肺高血圧症 - その人体病理と実験病理の一断面 - 膝癌の発生 マクロファージの発生, 分化と機能
1994 (平成6)	83 (京都)	渡辺 英伸 池原 進 石川 隆俊	早期胆嚢癌の病理 難病の病因 DNA修復と発癌
1995 (平成7)	84 (名古屋)	今井 大 片桐 一 岡田 茂	濾胞樹状細胞の形態・機能・病態 HLAと疾患 活性酸素による組織障害と発がん - 鉄依存性腎発がんモデルを中心として -
1996 (平成8)	85 (東京)	日合 弘 廣橋 説雄 町並 陸生	リンパ腫の遺伝的感受性の実験的研究 ヒトがんの多段階発生と組織学的多様性の分子機構 骨・関節腫瘍の病理
1997 (平成9)	86 (札幌)	吉木 敬 矢谷 隆一 遠藤 雄三	ヒトレトロウイルス感染の病理 ヒト前立腺癌の発生と進展 - 地理病理学的・分子病理学的アプローチ IgA腎症の成因
1998 (平成10)	87 (広島)	福島 昭治 秦 順一 森 茂郎	環境因子の発癌リスク - 評価と予防への実験病理学的アプローチ - 胎児性腫瘍の病理 - 細胞分化, 器官形成の分子基盤 - びまん性大細胞型リンパ腫の病理
1999 (平成11)	88	林 良夫 神代 正道 長嶋 和郎	シェーグレン症候群の病理 肝細胞癌の病理; 特に形態発生と進展について ウイルス性脳症の発生機序
2000 (平成12)	89 (大阪)	広川 勝彦 能勢 真人 恒吉 正澄	老化とストレスと免疫機能 膠原病の病像多様性の起源 軟部肉腫の病理
2001 (平成13)	90 (東京)	青笹 克之 名倉 宏 高橋 雅英	慢性炎症を基盤に発生する悪性リンパ腫 消化管粘膜における生体防御機構と粘膜障害 RET癌原遺伝子の病理学
2002 (平成14)	91 (横浜)	立松 正衛 樋野 興夫 岡田 保典	胃癌の発生・進展・修飾要因 癌性化境遇 - 炎症による肝癌と遺伝による人癌に学ぶ - 細胞外マトリックス代謝の病理
2003 (平成15)	92 (福岡)	津田 洋行 長村 義之 居石 克夫	がん遺伝子トランスジェニックラットを用いた発がん研究 下垂体細胞および下垂体腺腫の機能分化の分子機構 - 転写因子を中心として - 血管リモデリングの病理 - 血管内皮細胞の機能からみた病態解析と臨床研究への応用 -

表3 宿題報告一覧 つづき

年	総会回	演者	演題
2004 (平成16)	93 (札幌)	森 秀樹 中沼 安二 筒井 祥博	大腸がんの発生と予防 肝内胆管がんの病理-原発性胆汁性肝硬変(PBC)を中心に- サイトメガロウイルス感染症における神経原発性の発生機序
2005 (平成17)	94 (横浜)	小野江和則 小川 勝洋 山口 朗	T細胞免疫系の成立と生体内役割 実験肝発癌の分子病理-初期変化を中心に- 骨芽細胞の分化調節機構の解析:骨疾患の成因,病態の解析と治療法の開発に向けた基盤研究
2006 (平成18)	95 (東京)	落合 淳志 追手 巍 山本 哲郎	がん微小環境と浸潤・転移機構-臓器特異がん転移機構解明と治療法開発の試み- 糸球体腎炎:発症・進展そして糸球体硬化 貧食白血球の浸潤諸パターンを担う新規の白血球走化因子について
2007 (平成19)	96 (大阪)	白井 智之 内藤 眞 高松 徹郎	前立腺癌の発生・進展とその予防に関する基礎的研究 マクロファージの分化・機能制御機構と疾患 不整脈源性基質を求めて-バイオフィトニクスを用いた心臓病理学-
2008 (平成20)	97 (金沢)	安井 弥 佐藤 昇志 岩崎 宏	胃がんの Transcriptome dissection -組織からのシーズの発見とその診断・治療への展開- ヒトがん免疫制御の分子病理学的基盤 軟部腫瘍の病態-日常の診断から実験的探索へ-
2009 (平成21)	98 (京都)	笹野 公伸 深山 正久 笹栗 靖之	Endocrinology から Intracrinology へ -ヒト乳癌局所でのエストロゲン合成とその作用- 感染症と癌-Epstein Barr ウイルス関連胃癌の病理 ヒスタミンによるコレステロール・胆汁酸代謝調節と動脈硬化への関与
2010 (平成22)	99 (東京)	張ヶ谷健一 米澤 傑 上出 利光	病態解析に向けた細胞-細胞,細胞-基質間相互作用の研究- Mam, CD44, ヒアルロンサンの解析- ムチン:ヒト癌における臨床病理学的意義と遺伝子発現機構の解明から腫瘍悪性度早期診断システムの構築まで 組織微小環境の内的調節因子,オステオポンチンの病態病理学
2011 (平成23)	100 (横浜)	岡安 勲 宮園 浩平	潰瘍性大腸炎の発症・持続とその大腸発癌・進展機序: 慢性臓器炎-発癌系のモデルとして がんの浸潤・転移のシグナルネットワーク